

選択した問題は、選択欄の(選)をマークしてください。マークがない場合は、採点されません。

問7 収益の検討に関する次の記述を読んで、設問1～3に答えよ。

小規模な部品メーカーであるR社は、部品Tだけを生産して大手機械メーカーに販売している。

設問1 次の記述中の□に入れる適切な答えを、解答群の中から選べ。

利益計画を策定するために、部品Tの販売数について2通りの検討を行った。表1は、部品Tの販売数を1,000千個見込むケースXと、1,200千個見込むケースYについての収益検討表である。両ケースの、売上高に対する変動費の比率（以下、変動費率という）は等しく、固定費は同額である。

表1 収益検討表

ケース	X	Y
販売数（千個）	1,000	1,200
売上高（千円）	200,000	240,000
変動費（千円）		
固定費（千円）		
利益（千円）	16,000	26,000

注記 網掛けの部分は表示していない。

表1から、変動費率は□a□％、固定費は□b□千円である。よって、利益が0になる売上高（以下、損益分岐点売上高という）は、□c□千円となる。

R 社では、販売先から値下げ要求があることを想定して、販売数及び変動費を変えずに販売単価を下げた場合の値下げ率（値下げ額÷値下げ前の販売単価）と利益の計算を行った。利益がマイナスにならない最大の値下げ率は、ケース X では % であり、ケース Y ではケース X 。

a に関する解答群

ア 25 イ 40 ウ 60 エ 75 オ 80

b に関する解答群

ア 16,000 イ 34,000 ウ 64,000 エ 104,000 オ 134,000

c に関する解答群

ア 45,333 イ 64,000 ウ 85,333 エ 136,000 オ 256,000

d に関する解答群

ア 4 イ 8 ウ 10 エ 12 オ 16

e に関する解答群

ア と変わらない イ よりも大きい ウ よりも小さい

設問2 R 社は、変動費と固定費の合計（以下、費用という）と売上高の関係を他の3社と比較して、分析した。その結果、変動費率は R 社が他社と比べて最も高いことが分かった。売上高と費用の関係を示したグラフを、図 1 に示す。図 1 のグラフ①～④のうち、R 社に該当するものを、解答群の中から選べ。

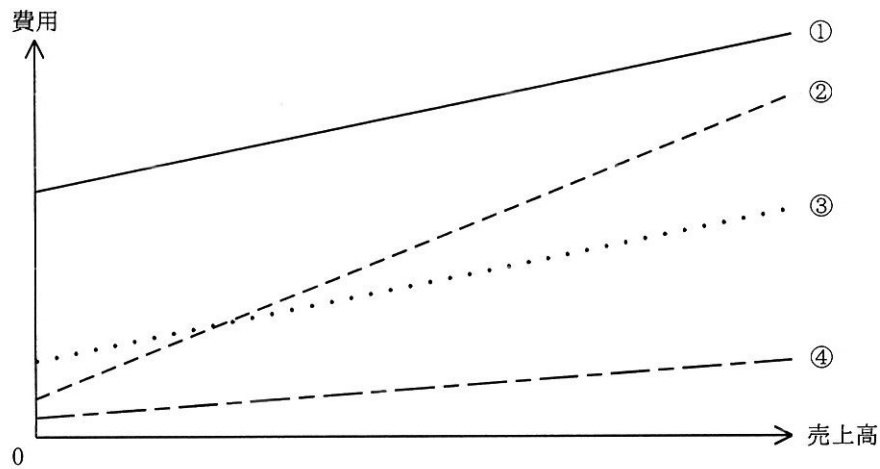


図1 4社の売上高と費用の関係を示したグラフ

解答群

ア ①

イ ②

ウ ③

エ ④

設問3 R社は、変動費率を下げる取組みを開始した。次の記述中の に入れる適切な答えを、解答群の中から選べ。

R社は、固定費を変えずに変動費率だけを下げることによって、損益分岐点売上高を f こととした。そのために、 g 取組みを開始した。

fに関する解答群

ア 上げる

イ 下げる

ウ 0にする

gに関する解答群

ア 原材料の単価を下げる

イ 社員の給与を上げる

ウ 販売数を増やす

エ 販売単価を下げる